校長先生の子どものころのお話　第５回

５月１５日（金）

お願い：低学年の子どもたちには少しむずかしいかもしれません。お家の人と読んでみてください。

『　駄菓子（だがし）の思い出　』　　校長　寺本　喜和

小学生のころ，近所に駄菓子屋さんがあったことをとても覚えています。おこづかいをもらった時に，駄菓子屋さんに行ってお菓子を買うことを許してもらったことはとてもうれしかった思い出です。

皆さんはおこづかいを毎月決まった金額をもらいますか？校長先生が子どものころは，毎月決まったおこづかいをもらうようなことはなかったです。でも時々，おこづかいをもらえるチャンスがあったのです。

まずおこづかいをもらえるチャンスは，おおそうじなど，１年に１～２回の大きなお手伝いが与えられる時でした。その日は，固くしぼったぞうきんで，たたみをきれいにふくことが母から命じられた仕事でした。部屋中のたたみを一生懸命にふきました。力を入れて必死にふいたので汗がぽたぽたとたたみに落ちてしまうので，ぞうきんでその汗もふきとりました。また，ふだん手の届かない，たんすのすみっこのすき間や棚の上も水ぶきしました。子どもの小さな手はこのような時とても役立ちました。廊下もぞうきんで水ぶきしました。１時間以上かけて水ぶきそうじを終えると，母が「一生懸命にがんばってふいてくれてありがとう。おかげで本当にきれいになったよ。これ，ごほうびだよ。」と言って，１０円玉を５つ手に握らせてくれました。

皆さんは，たった５０円だと思うかもしれませんが，当時の５０円は子どもの私にはとてもうれしいものでした。なぜなら，駄菓子屋さんに行って，お菓子などを買うときに，５０円あればいろいろな物が買えたからです。一番好きだったのは「イチゴあめ」でした。イチゴあめは，イチゴの形をした赤や黄色の色とりどりのあめ玉で，あめ玉ひとつひとつに長いひもがくっつけてありました。その長いひもが束ねてあり，たくさんのアメがひとつにまとめてあります。確か１回１０円でした。１０円をはらって，ひもを一本だけ選んで引っ張ります。引っ張ったひものその先についたあめ玉をもらえるのです。ある日，ひもを引っ張ったら，一番大きなあめ玉を引き当てました。子どものころ，このイチゴあめのために何度もお金をはらって，何度も挑戦しましたが，たぶんこの時の１回だけ一番大きいあめ玉でした。外れた時のことより，この１回の大当たりのことを一番覚えています。その他，覚えているのは「ココアシガレット（たばこのような形でココア味のおかし）」「ヨーグルト（小さな入れ物にヨーグルト味のものが入っていた。木のスプーンですくって食べる）」「ソースせんべい（ソース味のせんべい）」「もち太郎（小さな粒粒のあられ）」など，今でも時々スーパーなどで見かけます。時々その駄菓子を買って帰ると，家族に笑われています。

私は駄菓子屋さんでは，５０円持って行っても大体２０円ぐらいしか使わない子どもでした。残ったお金は貯金箱に入れるか，次にお店に行ったときに使う子どもでした。昔はそれくらいお金は大事でした。駄菓子屋さんでは，その場で買ったお菓子を食べることが許されていて，みんなでお菓子を食べながら楽しくおしゃべりをしたことも良い思い出です。友達がお菓子のごみを地面にぽいと捨てると，おばさんに「こらっ！ちゃんとごみ箱に捨てなさい。」とこっぴどく叱られていました。